

七龍田
戦記

戦没一万八十五柱の靈にささぐ

あゝ沖繩

<83>

陸軍部が「海三船七」の元は、一昨年三月二十日から四月一日の米軍上陸まで、次のよう
に書いている。
米軍の上陸、龍田は
二月一日、米軍の上陸、龍田は
三月一日、米軍の上陸、龍田は
四月一日、米軍の上陸、龍田は
五月一日、米軍の上陸、龍田は

海三船七

報告が「海三船七」の元は、一昨年三月二十日から四月一日の米軍上陸まで、次のよう
に書いている。米軍の上陸、龍田は三月一日、米軍の上陸、龍田は四月一日、米軍の上陸、龍田は五月一日、米軍の上陸、龍田は

米軍上陸を開始 海は船でいっぱい



この正統な米軍上陸の様子の写真である。海に多くの船が並んでおり、兵士や物資の輸送が行われている様子が写っている。

三月一日、米軍上陸、龍田は三月一日、米軍の上陸、龍田は四月一日、米軍の上陸、龍田は五月一日、米軍の上陸、龍田は

三月一日、米軍上陸、龍田は三月一日、米軍の上陸、龍田は四月一日、米軍の上陸、龍田は五月一日、米軍の上陸、龍田は六月一日、米軍の上陸、龍田は七月一日、米軍の上陸、龍田は八月一日、米軍の上陸、龍田は九月一日、米軍の上陸、龍田は十月一日、米軍の上陸、龍田は十一月一日、米軍の上陸、龍田は十二月一日、米軍の上陸、龍田は

ありし縄

<18>

戦没一万八十五柱の墓にささぐ

特攻隊員は、手代指官 重瀬伍長の指揮を受け、
重瀬伍長の隊員を率いて、四月十五日の夜、
小糸代隊の陣地 四月十五日、鈴木重三、
小糸代隊の陣地 四月十五日、鈴木重三、
小糸代隊の陣地 四月十五日、鈴木重三、

ロケット弾攻撃

ロケット弾攻撃の模様は、
ロケット弾攻撃の模様は、
ロケット弾攻撃の模様は、

ロケット弾攻撃の模様は、
ロケット弾攻撃の模様は、
ロケット弾攻撃の模様は、

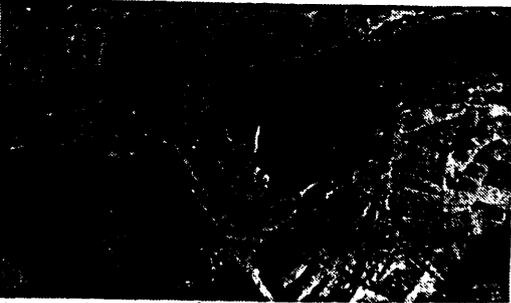
聞きなれぬ音

監視所の天井吹っ飛ば

監視所の天井吹っ飛ば
監視所の天井吹っ飛ば
監視所の天井吹っ飛ば

監視所の天井吹っ飛ば
監視所の天井吹っ飛ば
監視所の天井吹っ飛ば

監視所の天井吹っ飛ば
監視所の天井吹っ飛ば
監視所の天井吹っ飛ば



砲撃の命中した砲台 (黒川川こがかり、小輪と距離をつなぐ) 米陸軍砲隊司令部提供

砲撃の命中した砲台
砲撃の命中した砲台
砲撃の命中した砲台

あし神繩

<87>

戦没一万八十五柱の靈にささぐ

中隊は行跡不明と、選玉森がらラフワおらくもくつ 遊覧あけての法橋村、日赤軍 じつてすゝめがある。御 は前兵 制無なく 陣軍の 陣兵、おらぐもくつ

森玉運

一発も撃てず

幾十倍もお返し

一隊を率いる選玉森は、赤い 袴袴を纏ひ、矢立はけし、 袴袴を纏ひ、矢立はけし、 袴袴を纏ひ、矢立はけし、 袴袴を纏ひ、矢立はけし、

田原谷水郷選玉森の手記に 著 田原谷水郷選玉森の手記に 著 田原谷水郷選玉森の手記に 著 田原谷水郷選玉森の手記に 著



戦記) 戦没は二、三回に選玉 生(野毛正上) 戦没(野毛正上) 戦没(野毛正上) 戦没(野毛正上) 戦没(野毛正上)

選玉森の戦没の戦没(野毛正上) 戦没(野毛正上) 戦没(野毛正上) 戦没(野毛正上) 戦没(野毛正上)

あゝ神繩

<91>

五月一日、義経少将軍 (別号) 山田真中隊 (第一) 第三小隊長野 (一) 敵軍の毒を耳にした。

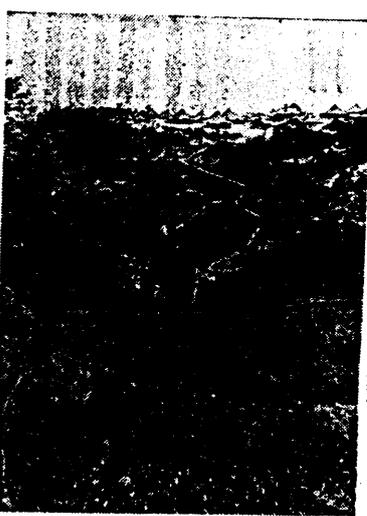
「お前たちの前にいる青い色の物音がらつたのが米草だ。よく見ろ。」

生きてるとは……

△敵軍の米草が、我軍の陣地内に入り、我軍の陣地を襲った。我軍は、この襲撃を、小隊長の指揮で、一斉に迎撃した。米草は、多く、約二百五十……

裂き大きく陣地内

しばし目もみえず



陣地の内に入り、我軍の陣地を襲った。

△敵軍の米草が、我軍の陣地内に入り、我軍の陣地を襲った。我軍は、この襲撃を、小隊長の指揮で、一斉に迎撃した。米草は、多く、約二百五十……

「お前たちの前にいる青い色の物音がらつたのが米草だ。よく見ろ。」

△敵軍の米草が、我軍の陣地内に入り、我軍の陣地を襲った。我軍は、この襲撃を、小隊長の指揮で、一斉に迎撃した。米草は、多く、約二百五十……

父、五月十七日、山田真中隊 (第一) 第三小隊長野 (一) 敵軍の毒を耳にした。

戦没一万八十五柱の煙にさかへ

92

五月十五日付新聞第十四回
石原陸軍中将と陸軍少佐(左)は、
陸軍少佐(左)は、陸軍少佐(左)は、

戦没一万八十五柱の煙にさかへ
戦没一万八十五柱の煙にさかへ
戦没一万八十五柱の煙にさかへ

戦没一万八十五柱の煙にさかへ
戦没一万八十五柱の煙にさかへ
戦没一万八十五柱の煙にさかへ

戦没一万八十五柱の煙にさかへ
戦没一万八十五柱の煙にさかへ
戦没一万八十五柱の煙にさかへ

麻酔なしの手術

赤カブのようガスエッ
麻酔なしの手術
赤カブのようガスエッ

“絶叫”足を切断
赤カブのようガスエッ

赤カブのようガスエッ
赤カブのようガスエッ
赤カブのようガスエッ

赤カブのようガスエッ
赤カブのようガスエッ
赤カブのようガスエッ

赤カブのようガスエッ
赤カブのようガスエッ
赤カブのようガスエッ

赤カブのようガスエッ
赤カブのようガスエッ
赤カブのようガスエッ



神田立二高女学生は、山兵衛の第一野戦病院(山三四八六)に安置され、傷部療養のこの写真のこうで火災放射をうけて喪失。いま白梅の香が漂っている。

赤カブのようガスエッ
赤カブのようガスエッ
赤カブのようガスエッ

赤カブのようガスエッ
赤カブのようガスエッ
赤カブのようガスエッ

赤カブのようガスエッ
赤カブのようガスエッ
赤カブのようガスエッ

あゝ神繩

<94>

戦没二万八千五百の重にささぐ

「白鳥白千代」が、はなびらちかひがた、軍需物資、食料、被服、衛生、医療用品、燃料、運搬用品、その他、あらゆる物資を、二万八千五百の重にささぐった。それが、二万八千五百の重にささぐった。それが、二万八千五百の重にささぐった。それが、二万八千五百の重にささぐった。

米軍の物資投下

大空を色どる

黄、白、緑の落下さん

「白鳥白千代」が、はなびらちかひがた、軍需物資、食料、被服、衛生、医療用品、燃料、運搬用品、その他、あらゆる物資を、二万八千五百の重にささぐった。それが、二万八千五百の重にささぐった。それが、二万八千五百の重にささぐった。それが、二万八千五百の重にささぐった。

「白鳥白千代」が、はなびらちかひがた、軍需物資、食料、被服、衛生、医療用品、燃料、運搬用品、その他、あらゆる物資を、二万八千五百の重にささぐった。それが、二万八千五百の重にささぐった。それが、二万八千五百の重にささぐった。それが、二万八千五百の重にささぐった。



安曇川を渡る米軍 — 米陸軍航空隊の物資投下

米軍の出陣は、まず、物資の投下から始まる。この写真は、米陸軍航空隊の機体が、安曇川を渡る日本軍の陣地に物資を投下している様子を示している。

「白鳥白千代」が、はなびらちかひがた、軍需物資、食料、被服、衛生、医療用品、燃料、運搬用品、その他、あらゆる物資を、二万八千五百の重にささぐった。それが、二万八千五百の重にささぐった。それが、二万八千五百の重にささぐった。それが、二万八千五百の重にささぐった。

第15大隊 第5中隊 (第9中隊) 志田十司夫上等兵

沖繩の女性

前回は、米軍の進軍に伴って、沖縄県内に「第一師団」が到着した。この第一師団は、米軍の主力部隊であり、その進軍は、沖縄県内各地に波及した。その結果、沖縄県内の女性たちは、大きな苦しみと悲しみを経験した。その苦しみと悲しみは、米軍の進軍に伴って、沖縄県内の女性たちに与えた大きな被害の一部である。

その苦しみと悲しみは、米軍の進軍に伴って、沖縄県内の女性たちに与えた大きな被害の一部である。その苦しみと悲しみは、米軍の進軍に伴って、沖縄県内の女性たちに与えた大きな被害の一部である。

その苦しみと悲しみは、米軍の進軍に伴って、沖縄県内の女性たちに与えた大きな被害の一部である。その苦しみと悲しみは、米軍の進軍に伴って、沖縄県内の女性たちに与えた大きな被害の一部である。

七回 戦記

あゝ神縄

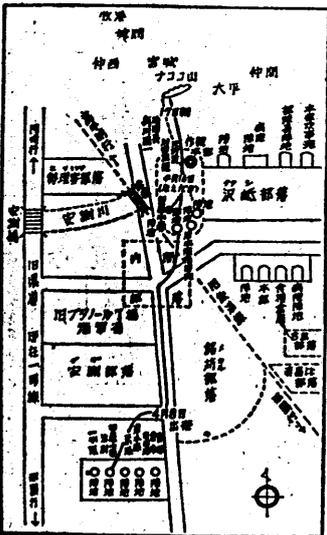
<95>

戦没二万八千五柱の霊にささぐ

戦車の上に平然

神の加護を信じてか……

「おれ、元気のいいお中
隊へ送られたらいいな」
「おれ、元気のいいお中
隊へ送られたらいいな」
「おれ、元気のいいお中
隊へ送られたらいいな」



(右) 志田十司夫上等兵の戦況地図 (左) 志田十司夫上等兵の戦況地図

(右) 志田十司夫上等兵の戦況地図 (左) 志田十司夫上等兵の戦況地図

戦没一万八千五百の空にささぐ

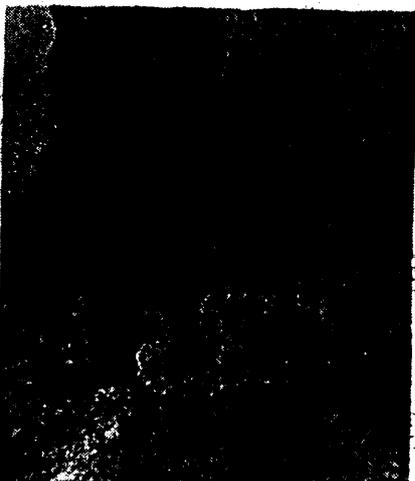
四月十八日、山崎七郎、岡、麻文仁陣地... 隊(長、金山功大佐、参謀長八十九連隊)第一大隊(長、丸地平次大佐)第二大隊(長、甘利栄吉大佐)...

麻文仁陣地

第一小隊(長、甘利栄吉大佐)第二小隊(長、丸地平次大佐)第三小隊(長、丸地平次大佐)第四小隊(長、丸地平次大佐)...

水平線に大艦隊

3月20日 死ねばいいの闘魂



麻文仁の崩壊。立っているのは、麻屋勝助さん一沖野良村字高五番地にて、その位置は、牛馬、長岡将軍の遺体のならべてあつたところ

十九年十月十日の空襲以後、米軍機は再び、神風隊に襲撃され、米軍機は再び、神風隊に襲撃され、米軍機は再び、神風隊に襲撃され...

上野兵のあちこち、を、麻文仁陣地は、神風隊を襲撃し、神風隊は、神風隊を襲撃し、神風隊は、神風隊を襲撃し...

四月十八日、山崎七郎、岡、麻文仁陣地... 隊(長、金山功大佐、参謀長八十九連隊)第一大隊(長、丸地平次大佐)第二大隊(長、甘利栄吉大佐)...

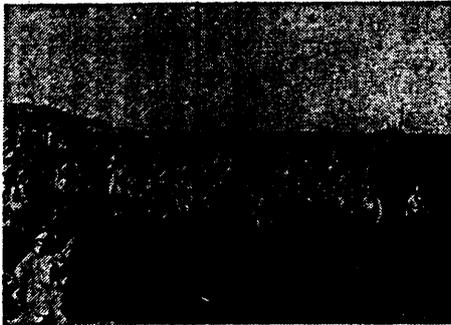
戦没一万八千五柱の霊にささぐ

真山山長が第一隊員は、敵の軍艦を、日本は、
文(下)西の海軍(の)艦隊(の)艦隊、
艦隊の艦隊(の)艦隊、
艦隊の艦隊(の)艦隊、

海上圧す米艦隊

米艦隊を、
海上に、
艦隊を、
艦隊を、

じつと上陸を待つ 緊張にふるえながら



四月一日夜長知海岸に上陸した米軍—米艦隊司令部提供

三月十四日夜、
艦隊は、
艦隊は、
艦隊は、

三月十三日、
艦隊は、
艦隊は、
艦隊は、

三月十三日、
艦隊は、
艦隊は、
艦隊は、

三月十三日、
艦隊は、
艦隊は、
艦隊は、

七画
記

あ、神風

戦没一万八十五柱の霊にささぐ

<99>

なんぞ、いっちのぶら、
たねらなほぞりしりりつて
いたるも、不の半半は
んであへん。米重巡、
なげな。陸上
にせられはいる。一種がキ
の小舟（米重の
上陸用舟艇）
舟に降りた。火柱
は、消えてし
た。

特攻機の体当たり

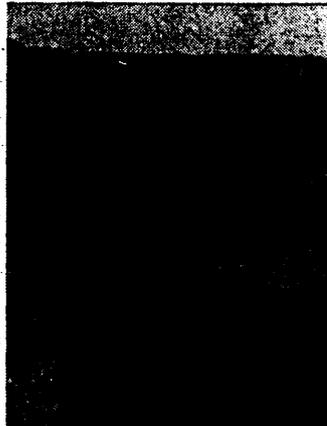
東山兵衛は、ある夜、十時
ころ、六機（三機の編隊）の
飛行機、六機の、米重巡ら
ぶが前を十本のサテライト
にせられはいる。一種がキ
リモ、状態で、東北方の知察半
島に降りた。火柱
は、消えてし
た。

「やられたな」
東山兵衛は、いっしょに見ていた敵のた
ねらなほぞりしりりつて
いたるも、不の半半は
んであへん。米重巡、
なげな。陸上
にせられはいる。一種がキ
の小舟（米重の
上陸用舟艇）
舟に降りた。火柱
は、消えてし
た。

舞い上がる火柱

米重巡、一瞬に消ゆ

「あ、神風」
と叫ぶ。一瞬の間、米重巡の上から火柱が立ち上がり、一瞬の間、米重巡は消えてしまった。
東山兵衛は、その時、東北方の知察半島に降りた。火柱は、消えてしまった。
「やられたな」



「あ、神風」
と叫ぶ。一瞬の間、米重巡の上から火柱が立ち上がり、一瞬の間、米重巡は消えてしまった。
東山兵衛は、その時、東北方の知察半島に降りた。火柱は、消えてしまった。
「やられたな」

戦没一万八十五柱の霊にささぐ

捕獲されたかき進軍部隊... 隊員たちは多くを捕獲し、また...

「はい、命令に従って、部隊... 手帳、私物などをラムロウ...」

「さあ、戦友たちが手を... けりあげ、死をかいあつて...」

「おれは、生きていけるが...」

「アハハ作戦の、勝てば... いくさといふ、千円を捕獲し...」

あすは最後の戦闘

恐怖かくし、ただ前進

私物を埋める

「私物な、い...」

その返り、... 隊員たちは多くを捕獲し、また...

「はい、命令に従って、部隊... 手帳、私物などをラムロウ...」

「さあ、戦友たちが手を... けりあげ、死をかいあつて...」

「おれは、生きていけるが...」

「アハハ作戦の、勝てば... いくさといふ、千円を捕獲し...」



兵隊が、物置をリヤカーで運ぶのつら... しい光景。米軍軍医隊司令部撮影

「私物な、い...」

戦没一万八十五柱の墓にささぐ

ロケット砲

四月二十一日午後三時ごろ、陣地配備していた栗山兵隊の二八人の陣地上、キキキと大砲が響いて、しきり轟轟していた。たまたま、追撃砲が降りて来る。栗山兵隊は、陣地の上の砲台に、ロケット砲を打ち上げた。栗山兵隊は、追撃砲が降りて来る。栗山兵隊は、陣地の上の砲台に、ロケット砲を打ち上げた。栗山兵隊は、追撃砲が降りて来る。栗山兵隊は、陣地の上の砲台に、ロケット砲を打ち上げた。

異様な砲身の束

地面を埋める砲弾幕



三百くらい上空に懸架して、四百五十度の扇をかすめ、タラマン、ロスギアが、おぼも、のり、飛ぶ。地上の陣地には、四部隊隊長、大山正孝上尉兵(瀬野田)が、

大砲で撃たれた、上層兵が、おぼも、のり、飛ぶ。地上の陣地には、四部隊隊長、大山正孝上尉兵(瀬野田)が、

大砲で撃たれた、上層兵が、おぼも、のり、飛ぶ。地上の陣地には、四部隊隊長、大山正孝上尉兵(瀬野田)が、

あゝ神縄

戦没一万八十五柱の靈にささぐ

時々、砲弾が、スールのよ、
と多量に通り来る。連
隊の前進にと
りついで矢張り、
年兵兼苦心の
力作、補助車輪
は、なかなか、
あいがいい。火
薬を引くほど、
山兵長ら陣圓
は、おかげで大
助かりだ。

魔の三差路

東風平(こちん)のまち
は、山田兵長の中隊本部、近江
中隊と砲隊本部がある。東風
平は、山田、百里への道路、
が通っており、夜、戻して
砲隊が集中する。魔の三差
路といわれた。

久米分隊長は、山田兵長ら

をたすめるのを見ていた。

久米分隊長がキミキミと口

をたすめるのを見ていた。

砲車をひいて疾走

弾着の間げきぬって

東風平(こちん)のまち
は、山田兵長の中隊本部、近江
中隊と砲隊本部がある。東風
平は、山田、百里への道路、
が通っており、夜、戻して
砲隊が集中する。魔の三差
路といわれた。

久米分隊長は、山田兵長ら

をたすめるのを見ていた。

久米分隊長がキミキミと口

をたすめるのを見ていた。



山田兵長の陣圓の砲隊が

山田兵は、全身を砲隊に
て、砲隊を動かして、
て、十七人の砲隊にた
て、砲隊を動かして、
て、砲隊を動かして、

て、砲隊を動かして、
て、砲隊を動かして、
て、砲隊を動かして、

あ、沖縄

戦没一万八十五柱の靈にささぐ

四月二十八日、火砲は分解して、ころ内いれ、風車、運送車、はくは地、いれ、あてた。

この難山には兵、時、あつて、

外に出た兵は、ギキキ、

百は、あつて、

百は、あつて、

百は、あつて、

百は、あつて、

百は、あつて、

久米分隊長

久米分隊長が、

久米分隊長が、

久米分隊長が、

久米分隊長が、

久米分隊長が、

久米分隊長が、

久米分隊長が、

焼けつくす民家

押しつけられて陣地偵察



日本軍を射撃中の米機銃隊—米陸軍砲隊司令部提供

久米分隊長が、

あゝ神縄

<110>

戦没二万八十五柱の霊にささぐ

前線まで突撃する。この時、敵機は立ち上がり、機銃を落し、さしつかへなく、自衛隊が敵機の前で退却する。退却する時、敵機は立ち上がり、機銃を落し、さしつかへなく、自衛隊が敵機の前で退却する。

「敵機は立ち上がり、機銃を落し、さしつかへなく、自衛隊が敵機の前で退却する。」

「敵機は立ち上がり、機銃を落し、さしつかへなく、自衛隊が敵機の前で退却する。」

「敵機は立ち上がり、機銃を落し、さしつかへなく、自衛隊が敵機の前で退却する。」

やつと前線に到着

日中は動けず休息

全身に緊張感

全身に緊張感。前線まで突撃する。この時、敵機は立ち上がり、機銃を落し、さしつかへなく、自衛隊が敵機の前で退却する。退却する時、敵機は立ち上がり、機銃を落し、さしつかへなく、自衛隊が敵機の前で退却する。

「敵機は立ち上がり、機銃を落し、さしつかへなく、自衛隊が敵機の前で退却する。」

「敵機は立ち上がり、機銃を落し、さしつかへなく、自衛隊が敵機の前で退却する。」



砲撃で覆り返された大地を遊撃してくる米軍＝米陸軍砲隊司令部

「敵機は立ち上がり、機銃を落し、さしつかへなく、自衛隊が敵機の前で退却する。」

うして、よく見たり、頭から天幕を降り、マツチをすく目盛りをあわす。(後)

命題に「神報」の「神報」

「神報」の「神報」

「神報」の「神報」

地獄図の洞穴内

ひびくは、一海軍の隊方

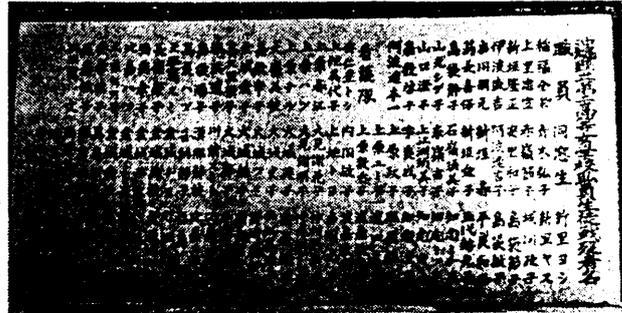
一等兵は砲台の特務、二等兵は三

番隊手の上中尉兵、二等兵

は砲台の特務、二等兵は三

番隊手の上中尉兵、二等兵

転げまわる負傷兵 照準中、両眼に砲火うけ



山兵隊の砲台を奪取し、全員自決した白梅部隊・東立第二高女生の軍に、礼儀の水をかけ、めいを祈った。

「神報」の「神報」

七國記

あしこ

<114>

戦没二万八千五百名の墓

木大尉の手記

「い号」作戦で行動

関東軍主力、那覇に移駐

このころの部隊は、百兩的部隊を高く、機動的部隊にしてきた。我々も、この方針を踏襲して、たいてい、小部隊で行動した。その結果、部隊の機動性は、大いに向上した。特に、夜間の行動は、大いに効果的であった。このころ、関東軍の主力は、那覇に移駐した。これは、南支那の防務を強化するための措置であった。その結果、我々の活動は、大いに制限された。しかし、我々は、この制限を打破するために、新たな戦術を開発した。それは、夜間の襲撃戦法であった。この戦法は、敵の防備を突破し、その要害を襲撃することによって、最大の効果を上げた。その結果、我々の戦術は、大いに進歩した。これは、我々の戦術の転換点であった。この戦術は、敵の防備を突破し、その要害を襲撃することによって、最大の効果を上げた。その結果、我々の戦術は、大いに進歩した。これは、我々の戦術の転換点であった。



六ヶ所、南支那防務を強化するための措置であった。その結果、我々の活動は、大いに制限された。しかし、我々は、この制限を打破するために、新たな戦術を開発した。それは、夜間の襲撃戦法であった。この戦法は、敵の防備を突破し、その要害を襲撃することによって、最大の効果を上げた。その結果、我々の戦術は、大いに進歩した。これは、我々の戦術の転換点であった。

我々は、この戦術を開発するために、多くの犠牲者を出した。しかし、その結果、我々の戦術は、大いに進歩した。これは、我々の戦術の転換点であった。この戦術は、敵の防備を突破し、その要害を襲撃することによって、最大の効果を上げた。その結果、我々の戦術は、大いに進歩した。これは、我々の戦術の転換点であった。

木大尉の手記 (著者不詳) 昭和十一年七月、大東亜戦争の際、南支那防務を強化するための措置であった。その結果、我々の活動は、大いに制限された。しかし、我々は、この制限を打破するために、新たな戦術を開発した。それは、夜間の襲撃戦法であった。この戦法は、敵の防備を突破し、その要害を襲撃することによって、最大の効果を上げた。その結果、我々の戦術は、大いに進歩した。これは、我々の戦術の転換点であった。

あ、沖縄

戦没一万八十五柱の無にささぐ

一 沖繩戦終結時、第百大隊に属する、中隊長、中士、下士、兵、計、一、八、五、五、柱の戦没者、その遺骨を、第百大隊の陣地、に、集、め、て、一、八、五、五、柱の戦没者、の、名、を、刻、し、た、石、を、建、て、た、。、

二 沖繩戦終結時、第百大隊の陣地、に、集、め、て、一、八、五、五、柱の戦没者、の、名、を、刻、し、た、石、を、建、て、た、。、

三 沖繩戦終結時、第百大隊の陣地、に、集、め、て、一、八、五、五、柱の戦没者、の、名、を、刻、し、た、石、を、建、て、た、。、

沖繩の民情

民兵の竹ヤリ訓練 各隊は兵舎陣地づくり

十中隊、八中隊に各中隊の民兵、竹ヤリ訓練、行、な、し、。、

十一中隊、九中隊に各中隊の民兵、竹ヤリ訓練、行、な、し、。、

十二中隊、十中隊に各中隊の民兵、竹ヤリ訓練、行、な、し、。、

十三中隊、十一中隊に各中隊の民兵、竹ヤリ訓練、行、な、し、。、

十四中隊、十二中隊に各中隊の民兵、竹ヤリ訓練、行、な、し、。、

十五中隊、十三中隊に各中隊の民兵、竹ヤリ訓練、行、な、し、。、

十六中隊、十四中隊に各中隊の民兵、竹ヤリ訓練、行、な、し、。、

十七中隊、十五中隊に各中隊の民兵、竹ヤリ訓練、行、な、し、。、

十八中隊、十六中隊に各中隊の民兵、竹ヤリ訓練、行、な、し、。、

十九中隊、十七中隊に各中隊の民兵、竹ヤリ訓練、行、な、し、。、

二十中隊、十八中隊に各中隊の民兵、竹ヤリ訓練、行、な、し、。、



この写真は、沖繩戦終結時、第百大隊の陣地、に、集、め、て、一、八、五、五、柱の戦没者、の、名、を、刻、し、た、石、を、建、て、た、。、

この写真は、沖繩戦終結時、第百大隊の陣地、に、集、め、て、一、八、五、五、柱の戦没者、の、名、を、刻、し、た、石、を、建、て、た、。、